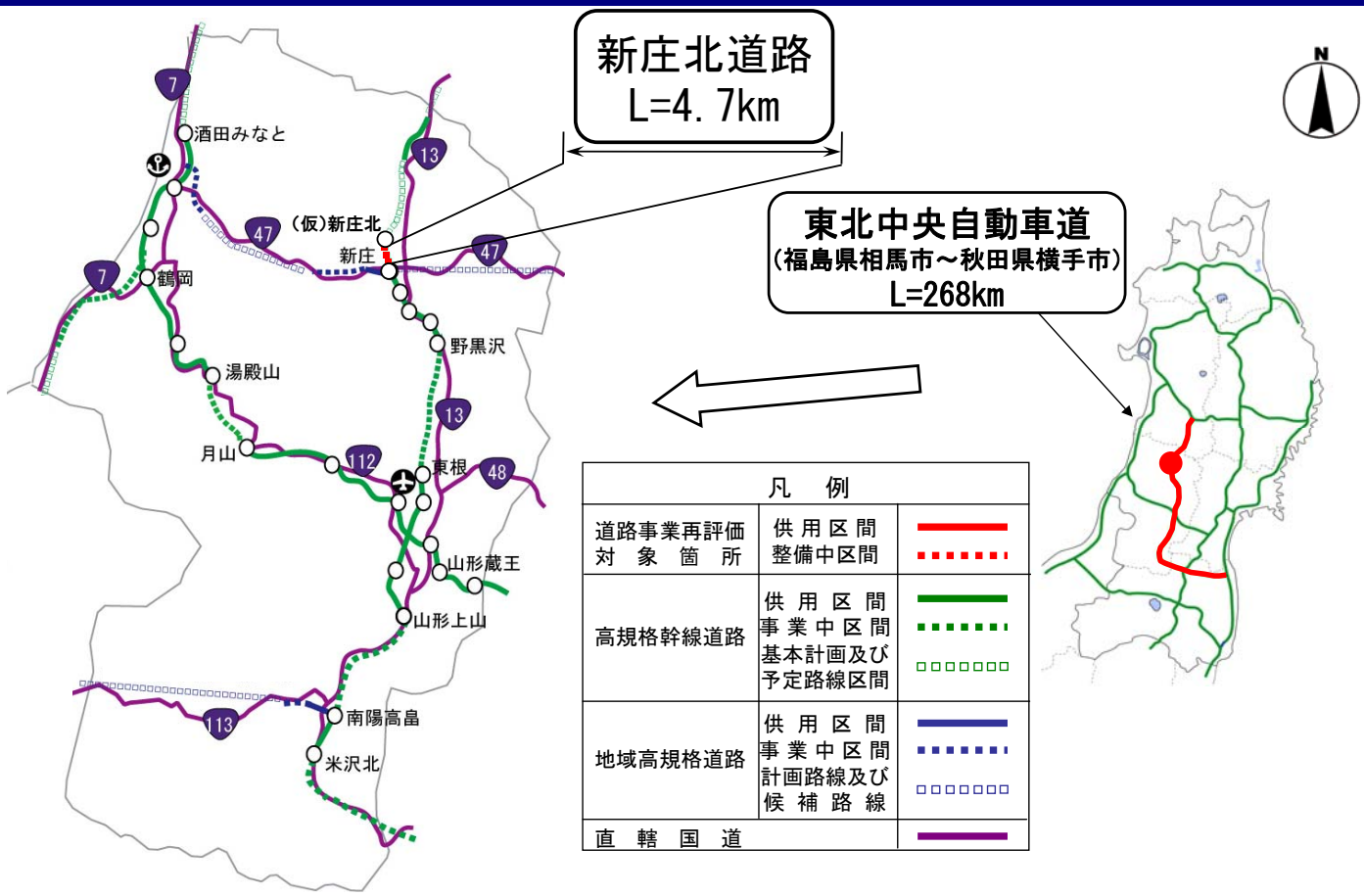
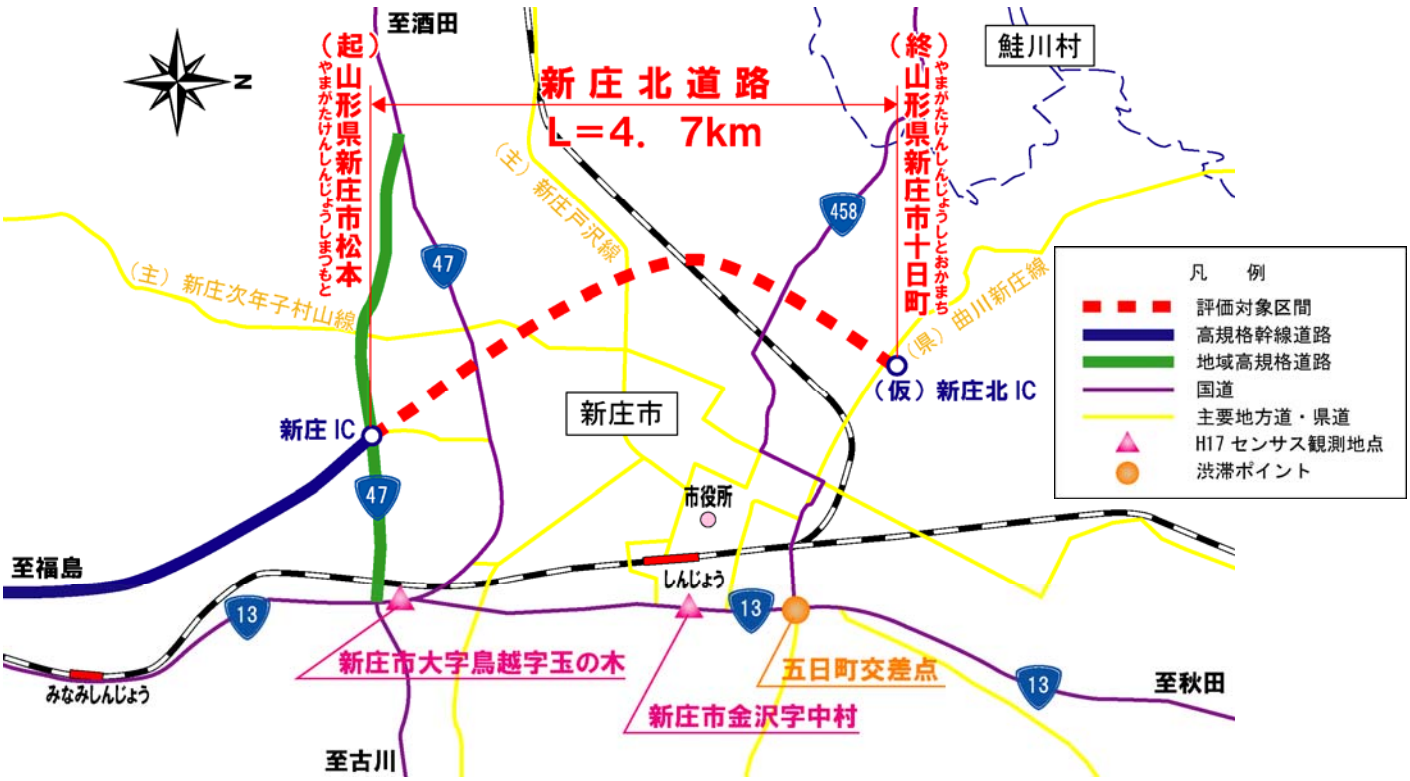
一般国道13号　新庄北道路（しんじょうきた）



一般国道13号　新庄北道路（しんじょうきた）



一般国道13号　新庄北道路（しんじょうきたどうろ）

【評価要件：事業採択後１０年経過】

○事業の目的
- 東北内陸部の産業、経済、文化の広域的な交流・連携の促進
- 三次救急医療施設へのアクセス向上
- 交通混雑の緩和・交通事故の減少

○延　　長：Ｌ＝４．７ km

○事　業　費：(完成)181億円　(暫定)160億円

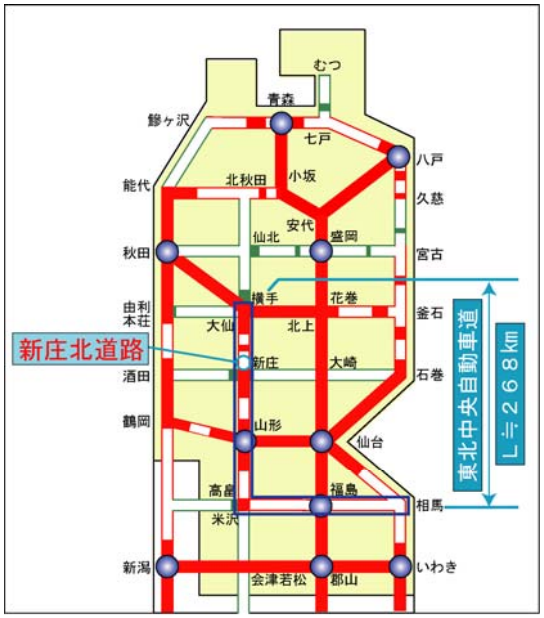
○事　業　化：平成１２年度

○進　捗　率：(完成)　８７％　(暫定)９８％

東北内陸部の産業、経済、文化の広域的な交流・連携の促進

・新庄北道路は、東北中央自動車道の一部として、高規格幹線道路ネットワークを形成。都市間所要時間の短縮とともに、東北内陸部の交流・連携の促進を図る重要な路線である。

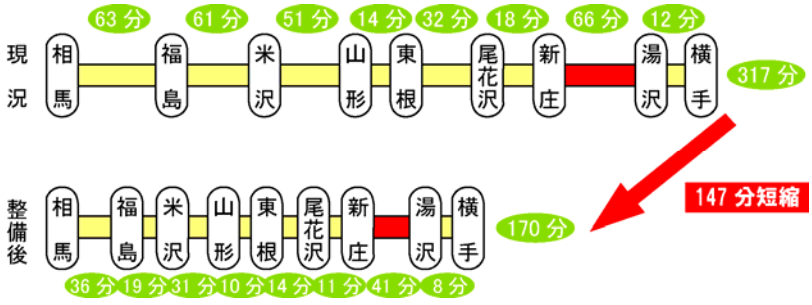
▼格子状骨格道路ネットワーク



高規格道路	（供用・未供用）
地域高規格道路等	（供用・未供用）

（平成21年4月現在）

▼相馬市～横手市間の所要時間の変化

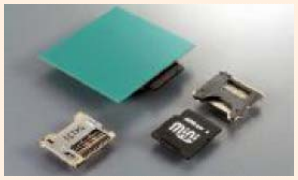


資料：07～08道路時刻表
整備後の速度は100km/h（一部80km/h）として設定

高速ネットワークの形成による産業支援

・新庄北道路周辺には、新庄中核工業団地・横根山工業団地が存在。
・東北中央自動車道の整備により、横根山工業団地から東京方面への製品輸送の利便性が向上。
・また、金山町・真室川町から新庄中核工業団地へは通勤ラッシュ時に市街地を通らず通勤可能になり、通勤時間も短縮。
・地域産業を支援する路線として、整備が必要である。

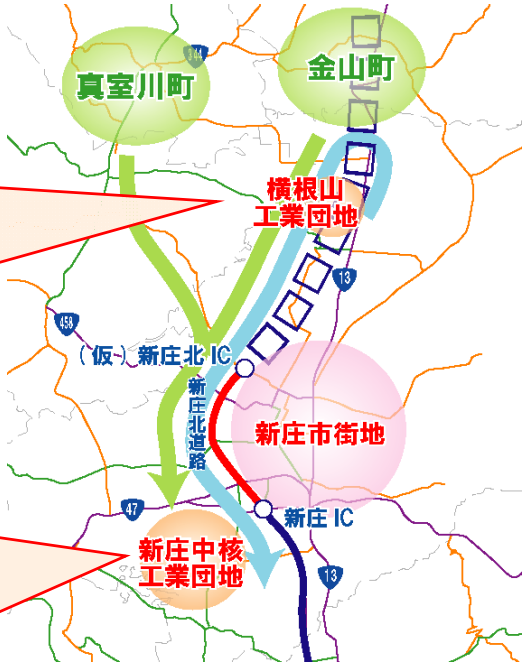
●横根山工業団地には、東北一の生産規模を誇る精密電子部品の開発・製造メーカーが立地。製品のほとんどを**東京へ**輸送している。



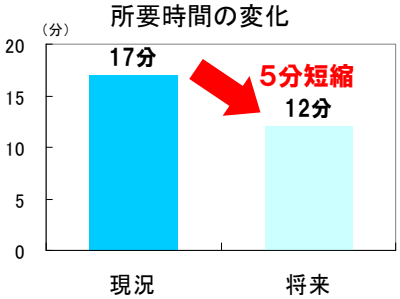
●新庄中核工業団地は、最上地域最大の工業団地であり、最上地域全域に従業者をかかえている。新庄市内をはじめ、金山町（140台*）、真室川町（130台*）からの通勤交通 がある。



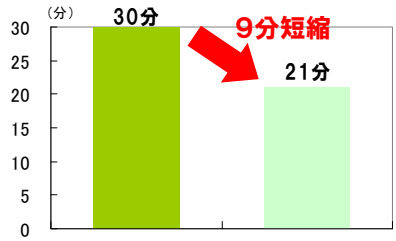
＊H17センサスODマスタより出勤目的ODを集計



▼横根山工業団地から新庄ICへの所要時間の変化



▼金山町から新庄中核工業団地への所要時間の変化



将来：東北中央自動車道全線暫定供用時

高速ネットワークの形成による産業支援

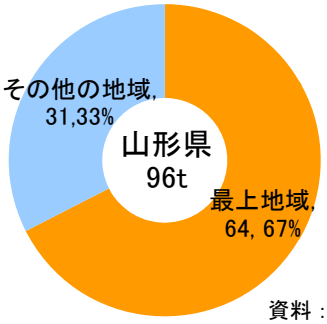
・最上地方はきのこや山菜の生産が盛んで、京浜方面へ出荷している。
・地域産業の促進のため、速達性の向上を図る高規格ネットワークの整備が必要である。

▼たらの芽の東京中央卸売市場取扱量上位5県

順位	都道府県名	取扱量(t)	東京中央卸売市場シェア
1	山形	65	53.9%
2	群馬	17	14.3%
3	秋田	14	11.8%
4	福島	9	7.8%
5	岩手	5	3.9%

資料：東京中央卸売市場（H19）

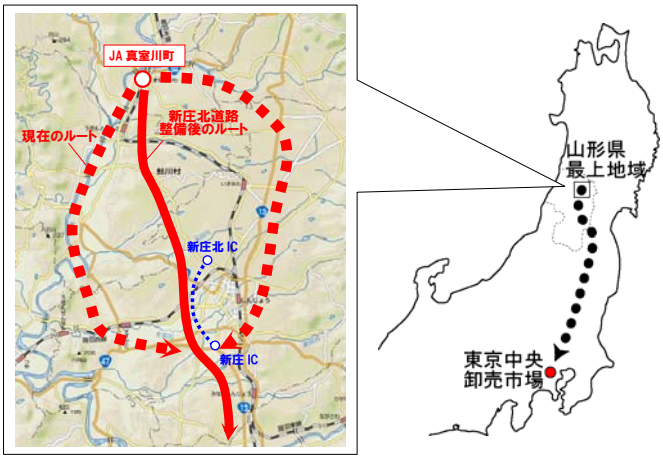
▼たらの芽の山形県内出荷量内訳





資料：山形県林業統計（H19）

▼たらの芽の真室川町から京浜方面への出荷ルート



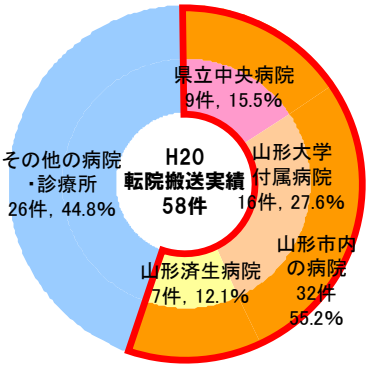
JA真室川町・運送業者の方へのヒアリング調査より

・真室川町で生産されるたらの芽は、そのほとんどを京浜方面へ出荷している。
・現在は、JA真室川町から様々なルートを通り、新庄ICまで行き、そこから京浜方面へ輸送している。
・新庄北道路が整備されれば、当然新庄北道路を利用する。

三次救急医療施設へのアクセス向上

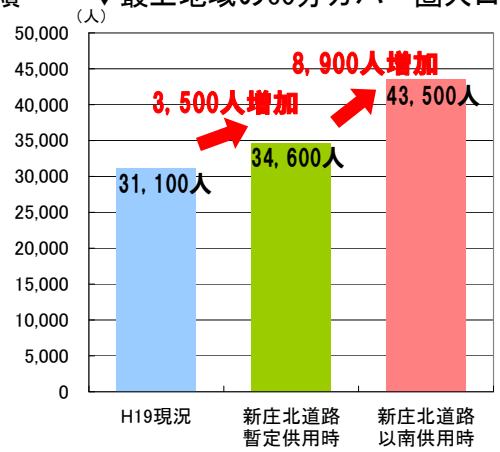
・最上地域には三次救急医療施設が整備されておらず、山形市内の病院を中心に域外へ転院搬送されている。
・広域的な救急搬送の迅速化を図るため、高規格道路網の整備が必要である。

▼最上地域における搬送実績



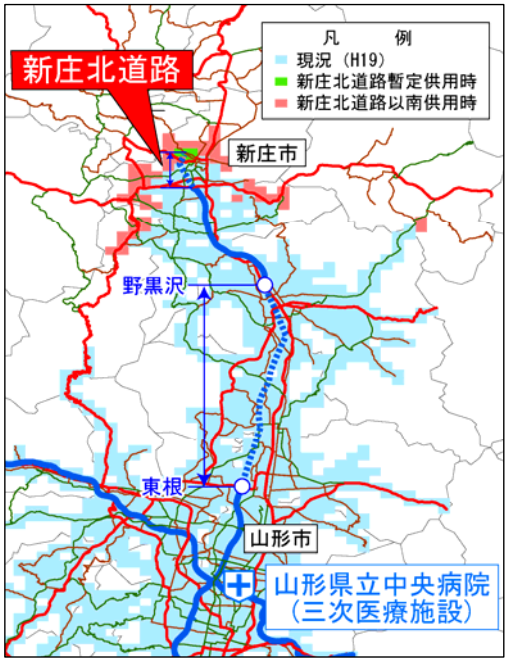
資料：最上広域市町村圏
事務組合消防本部

▼最上地域の60分カバー圏人口



＊最上地域の人口：90，740人
（H17国勢調査）
・新庄北道路暫定供用時
ネットワーク=H19現況+新庄北道路
・新庄北道路以南供用時
ネットワーク=H19現況
+新庄北道路
+東根～野黒沢

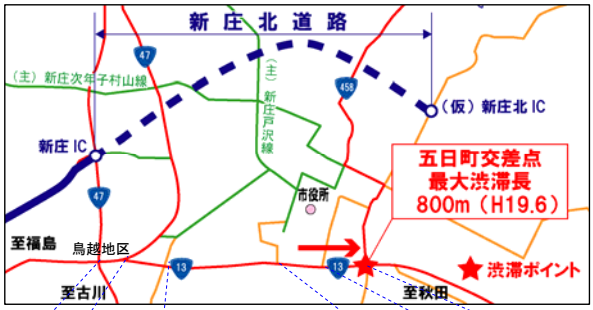
▼三次医療施設60分カバー圏



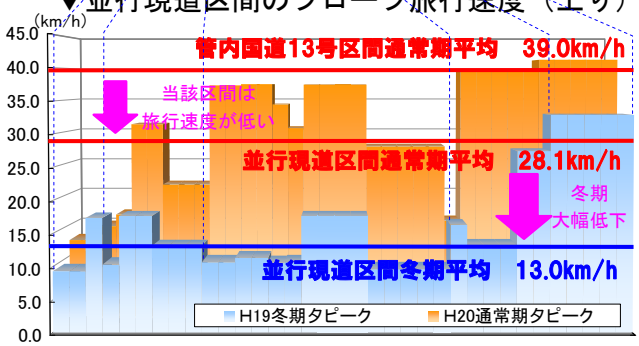
交通混雑の緩和

・通過交通の割合が高く、並行現道には渋滞ポイントが存在している。
・特に冬期の旅行速度低下が著しいため、通過交通を排除し、並行現道の渋滞を緩和する必要がある。

▼並行現道区間の混雑状況



▼並行現道区間のプローブ旅行速度（上り）



＊管内国道13号区間
通常期平均旅行速度
＝H17センサス ピーク時
旅行速度

▼五日町交差点の渋滞状況

（通常期）



（冬期）



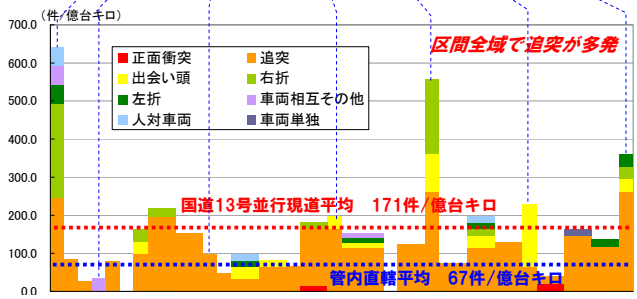
交通事故の減少

・当該区間並行現道の死傷事故率は管内直轄平均の2.6倍（171件/億台キロ）と高く、中でも渋滞に起因する追突事故が多い。
・通過交通を排除し交通安全を確保する必要がある。

▼並行現道区間の死傷事故率及び事故類型

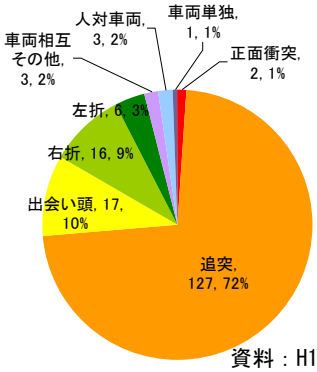


死傷事故率
100件/億台キロ
以上の区間



資料：H15－H18イタルダ

▼並行現道区間事故類型



資料：H15－H18イタルダ

▼並行現道区間における事故状況



事　業　の　投　資　効　果

○費用便益比（B／C）
※下表の数値は、基準年（平成21年）における現在価値に換算した金額を記載

【残事業】

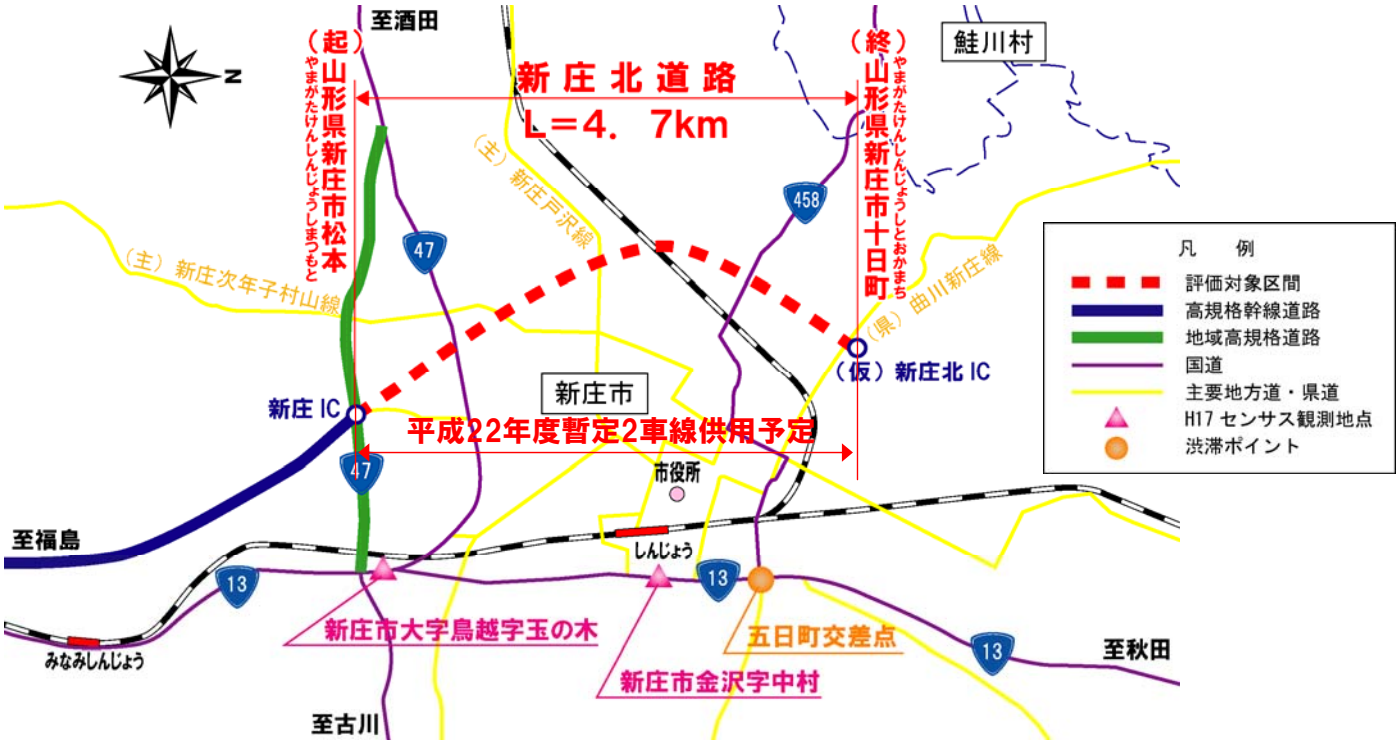
費用C（現在価値）	30億円
便益B（現在価値）	493億円
費用便益比　B／C	16.4

【全　線】 費用便益比　B／C　　2.6

計画交通量（平成42年度）　・新庄北道路＝15，500台/日
・現道＝9，000台/日

供用予定等今後の事業の見通し

・平成22年度暫定2車線供用予定。



対　応　方　針　（　原　案　）

〇早期整備の必要性が高い。

- 東北内陸部の産業、経済、文化の広域的な交流・連携の促進
- 三次救急医療施設へのアクセス向上
- 交通混雑の緩和・交通事故の減少

〇地元自治体等からの事業促進の要望がある。

事業を継続実施